

るが、Graphite が存在する時は還元雰囲気となり釉薬中の CuO から O が奪われ赤色の発色をする可能性をもつことが明らかになった。しかし、良好な赤色を得るためには、Graphite の量や焼成条件など種々の要因がその発色に大きく影響することが推察された。

B—44 CuO を含む釉薬の発色におよぼす Graphite の影響について

県立新潟女短大 山崎 光子

1. 服飾アクセサリーの焼物（低火度焼成を除く陶磁器）への応用にあたり、色釉のうちでも発色が技術的に至難とされている CuO による赤色の釉（辰砂釉）を、小型電気炉内で容易に発色させるための一試案として Graphite の利用をとりあげ、それが CuO を含む釉薬におよぼす影響について検討した。

2. 試料は、円型（径 16mm、厚さ 2mm）に成型しあらかじめ 1100°C で素焼した Sericite の base に、CuO を含む陶磁器釉をかけた。

焼成方法は、本焼窯で薪材によって、また、H₂ gas, CO gas によって焼成試験を行なった後、Graphite をとりあげたもので、小型電気炉（11.5A, 63V）の熱電対温度計に最も近い部分にルツボあるいは黒鉛ルツボを置いて、1200±2°C で焼成した。

焼成条件は、Graphite 粉末を釉に混入、Graphite 粉末中、ルツボまたは、黒鉛ルツボ中で密閉、開放など各種条件を変えて焼成した。

3. Graphite が炉中に全くない場合は緑色の釉とな